

子どもたち、保護者、学校の先生方に呼びかけます

新年度の学校再開に向けて 子どもたちの心に寄り添うとりくみを大切にしましょう！

■ 4月から学校が始まります

新型コロナウイルス対策による休校が続いていましたが、各学校では、この4月からの再開に向けて準備が進められているところです。これまでの休校期間中、保護者・祖父母、地域の皆さんが、子どもたちが困らないように、知恵を出し合いがんばっている様子が街のあちこちで話題になっています。学校では、子どもたちや家庭とつながる努力を重ねてきています。また、市役所前の遊び場づくりや「子どものためのブックパック（市立図書館）」など、子どもたちを応援する取組が展開されています。子どもたちにとって、頼りになる大人の姿がたくさんあります。

■ 学校再開にあたり、大切なことは子どもたちの心に寄り添うことです

学校再開にあたって大切なことは、子どもたちの心のケアをどうすすめていくのかです。休校によるストレスの影響が心配されています。子どもたちの心に寄り添うことを基本に、次の4つの視点を大切に支援していきましょう。

1. 困っている子がこれ以上困らないために、子どもの心に寄り添いましょう

長い休校の影響で、ストレスがたまっていたり、生活リズムが崩れている子どもたちがいます。ポイントは、「困っている子がこれ以上に困らないよう」に子どもの心に寄り添い支援することです。具体的な支援方法については、つばさ学級、教育相談所としていつでも相談対応します。

2. 新年度の支援ネットワークの体制づくりと開催について準備に入りましょう

困っている子どもたちを学校と関係者、地域の方が協力して支援するのが中学校区単位の支援ネットワークです。稚内市では、北、南、東、潮見の4地区にネットワークが組織されています。新年度にあたり、いち早く体制をつくり、ネットワークが機能するよう学校・関係者で連携を取り合いながらスタートさせましょう。

3. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、専門指導員が応援します

「子どもたちのケアや支援について相談したい」「子育ての悩みに応えたい」というときは遠慮なく、つばさ学級・教育相談所に連絡をください。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーをはじめ、教育アドバイザーや指導員が学校や保護者の皆さんを応援します。

4. 子どもたちを新型コロナウイルス感染に関する「いじめ」や「偏見」から守りましょう

感染の広がりの中で、「あの人は陽性、陰性？」「感染者が出ている場所に行ったからダメ！」等の特定の人間に対するいじめや差別・偏見が生まれているという報道が伝わってきています。特に、学校での「マスクの装着」をめぐるのは、マスクの有無や装着の仕方など、「いじめ」を生み出すことにつながる可能性があります。子どもたちがマスクで困らないように配慮することが大切です。マスクが準備できないときは、保護者、地区ネットワークや地域の方々に大胆に要請しましょう。

■ つばさ学級・稚内市教育相談所は、子どもたち・保護者・学校支援のためにがんばります。